

侵襲的な面接について

赤平市医師会
平岸病院

青柳 雅宏

精神科に籍を置いてから早くも10年が経とうとしております。精神保健指定医の資格も取らせていただき、幾度か措置診察も経験しました。

措置診察は指定医の本来業務ですが、実は研修期間中に全く措置診察の場面を見なくても、資格は取得できる仕組みになっています。これはまずいのではないか、ということで精神保健福祉法の改定議題になったようですが、現在のところ審議は進んでいません。措置診察のやり方についても定式化されたものがなく、個々の指定医が自らの責任において「自傷他害のおそれ」を評価しているのが現状です。ここでは個人的に心がけていることの一つを述べます。

まず社会通念として、初対面の相手を怒らせたり悲しませたりしかねない質問はすべきではありません。しかし、あえてそういったことに触れ反応を引き出さなければ、思考障害などの評価を行い得ない場面もあります。ここが外来で初診患者さんに向き合うのとは異なる点であり、「いきなり聞きにくいことを聞く」必要が生じます。

私はこれを「侵襲的な面接」と呼んでいます。五寸釘を踏み抜いた患者が来院したところを想像してください。軟部組織はX線でうまく描出できず、治療方針を決定するためにはどうしても傷の深さを評価する必要があります。この際傷口にゾンデを入れる行為に治療的意味はなく、痛みを伴うことですが、行わなければならない場面は存在します。

もちろん、互いに不快な経験をすることは可能な限り避けたいところです。ではいかに行うか？「初めてお会いする方には皆さんに聞いていることですが」「私が今こうしてお話していると、〇〇するといった手段もあったように思えますが、まずそうしようと思ったのはなぜなのでしょう？」など、枕言葉を使うことで衝撃を緩和する、一般化する、自分を主語にするといったテクニックがあります（でも怒られるときは怒られます）。テレビの中の名刑事、古畑任三郎、杉下右京…彼らは実に巧妙にこういった言い回しを使っていることに気付かされます。

病識がない状態というのは、神経学的には「失認」の一種です。思考障害を持ち、病識がない人にとって、他者に論理の破綻を指摘されるのは相当な「恐怖」を伴う体験です。医学は当然、論理で成り立つ学問ではありますが、自分はそういった患者さんに対して闇雲にゾンデを入れるようなことをしていないか、時々考えることがあります。

嗜癖物質の流行り廃り

札幌市医師会
大通公園メンタルクリニック

長谷川直実

私は、精神科を標榜するクリニックの医師で、専門分野は精神科リハビリテーション、司法精神医学、嗜癖である。

医師になって30年目になるが、この間、臨床で扱う嗜癖物質も変遷してきた。新人の頃は、吸引物質といえば、何といてもシンナーであった。最初は友人らと面白半分に吸引し、多くは10代で止めていくが、一部の乱用者は単独で引きこもって吸引を続け、無動機症候群（amotivational syndrome）と呼ばれる廃人のような状態にまで至る患者もいた。

シンナーは、ヤンキーや暴走族が衰退するとともに、いわゆる“アンパン”として、集団でヤンキー座りをして、ビニール袋内に揮発させて吸引するスタイルは廃れ、1990年代になると、栄養ドリンクなどの瓶に入れて揮発させ、街で吸引しながら歩くようなスタイルが見られるようになった。

そして、その後“アンパン”ではなく、吸引物質といえば、“ガスパン”遊びへ変わっていった。“ガスパン”とは、ライターガスやカセットコンロのガスを吸引する行為のことを指す。これは、集団ではなく単独での吸引が多く、火事や爆発、致死性不整脈など、突然死のリスクが高い。

2000年代に入って、危険ドラッグが流行し始めたが、危険ドラッグの乱用のみでの受診者は少なく、主たる乱用物質は覚醒剤や大麻などである受診者がほとんどだった。その後、主たる乱用物質が危険ドラッグである受診者がみられるようになり、2015年に規制が段階的に強まっていくと、駆け込み受診者が一時的に増えたが、規制薬物が包括指定された後は、皆無になった。

違法薬物ではない、薬物乱用での受診者も多い。薬局で市販の薬剤では、風邪薬、咳止め（コデイン、エフェドリン含有のもの）、向精神薬として購入されるウット®（プロモバレリル尿素含有）が多い。

精神科だけでなく、内科や整形外科など複数の医療機関を受診して睡眠薬や抗不安薬を処方してもらい、乱用する患者で、アルコールとの加重酩酊下で行った万引きなどの逸脱行為についての相談も少なくない。睡眠薬はフルニトラゼパム、ゾルピデム、トリアゾラムが処方されていることが多く、抗不安薬では圧倒的にエチゾラムが多い。われわれ医療者が「白衣を着た売人」と呼ばれることがこれ以上ないように、気をつけなければならない。